

平成 29 年度 TIA 連携プログラム探索推進事業「かけはし」 調査研究報告書(公開版)

【研究題目】 つくば研究コミュニティの可視化と連結

【整理番号】 TK17-074

【代表機関】 筑波大学

【調査研究代表者（氏名、連絡先 TEL & Mail）】

萩原友希江 029-853-4479 hagiwara.yukie.fn@un.tsukuba.ac.jp

【TIA 内連携機関：連携機関代表者】

高エネルギー加速器研究機構 池田 進

【報告書作成者】 萩原友希江

【報告書作成年月日】 2018 年 3 月 28 日

【連携推進（具体的な連携推進活動内容とその活動の効果等）】

筑波研究学園都市は世界でも稀に見る研究資源密集地帯でありながら、研究コミュニティの非連動性が現在のつくばエリアの大きな課題であることが、平成 28 年度の本ユニットの取組のなかでより浮き彫りになった。そこで、平成 29 年度は特に以下の 3 項目に取り組んだ。

- ①研究コミュニティを可視化して研究者同士の自発的な接触とそれによる新たな共同研究を促進する
- ②普段接点のない異分野研究者を引き合わせて研究者の「化学反応」を促進する
- ③「化学反応」を促進させる触媒となる研究支援者の連携を活性化させる

■Tsukuba Future Dome Symposium - 2 Farming（添付資料）

（②異分野研究者の「化学反応」を促進する取組）

開催日・場所 2017.9.25 つくば国際会議場 403 会議室

講演者所属機関：筑波大学、高エネルギー加速器研究機構、農研機構、愛媛大学

※Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2017 の「つくば連携」セッションとして実施

各研究者のフィールドで「Future Dome で食糧を生産」に貢献できることを持ち寄り発表した。登壇者選出の際には、セッションオーガナイザーの野口良造准教授（筑波大学生命環境系）を中心に、KEK の URA 2 名、筑波大 URA 4 名で、コラボレーションが可能で一般に興味を引きそうな研究テーマを抽出し、産総研のコーディネーター、農研機構の研究者など各自のコネクションを活用して研究者に登壇のオファーをすることができた。

本シンポジウムは登壇者と観客とがディスカッションし、登壇者間だけでなく観客と登壇者、観客同士のコラボレーションに発展するような話題提供が理想である。そのために、ターゲットとする研究者を集めるのがイベントの肝であり、イベント情報を効率よくターゲットに伝達するには、我々と研究者の間にそのような働きをする人とのつながりが有効である。昨年度から企画してきたこれらの「多機関異分野研究交流」の企画にあたる際には、研究機関の内情を良く知る人物が集まり旬な話題提供することが企画立案に大変有効であることを実感したことから、研究支援者のネットワーク構築を開始した（③つくば研究支援情報交換会）。

また、このシンポジウムが輩出したコラボレーションには、本ユニットメンバーが関わり研究資金の獲得支援など共同研究のスタートアップをサポートする「アフターケア」を実行し、2つの共同研究が競争的資金を獲得し始動している。

■ つくば研究支援情報交換会（添付資料）

（③「化学反応」を促進させる触媒となる研究支援者の連携を活性化させる取組）

○第1回テーマ「つくば連携に使える研究資金」

開催日・場所 2017.12.25 つくば国際会議場 406 会議室

つくば連携を支援する3つの研究資金の目的、公募時期、審査の観点等について担当者から説明を行い、参加者の所属機関研究者への広報のみならず、研究支援者が共同研究コーディネートに活用するモデルの紹介を行った。

- ・ つくば産学連携強化プロジェクト（筑波大学国際産学連携本部）
- ・ TIA 連携プログラム探索推進事業『かけはし』（TIA）
- ・ つくば Society 5.0 社会実装トライアル支援事業（つくば市）

○第2回テーマ「平成30年度 科学技術予算」

開催日・場所 第2回 2018.3.5 つくば国際会議場 406 会議室

国の科学技術予算が公表された。府省によって予算の読み方に違いがあり監督官庁の違う機関では理解しにくいいため、それぞれの予算に詳しい研究機関職員による解説が有効であろうと企画した。これは多くの研究機関が集積するつくばならではのプログラムであった。この会においては研究支援職のみならず、目当てとする資金の説明を聞きくために参加者の半数近くを研究者が占めた。

- ・ 文科省事業のポイント（筑波大学） ※（ ）内はスピーカー所属
- ・ 農水省事業のポイント（農林水産省 農林水産技術会議事務局）
- ・ 経産省事業・NEDO 事業のポイント（産総研）
- ・ JST 資金（JST）

【調査研究内容（実験等中心に背景・課題と実行された課題解決の内容と結果）】

① つくばの研究コミュニティガイド「TREE」（ウェブシステム）

H28 年度は基本的な開発とポテンシャルユーザーの数についてのウェブ調査、ポテンシャルユーザー、運営候補者とシステムの使用感等についてヒアリングを行った。

H29 年度は、H28 年度のヒアリングに基づくシステムの改善を行い、ターゲットユーザーを絞り込んでの先行利用と一般公開、運営者と運営方法の決定を課題に取り組んだ。つくばには研究機関・研究連携促進を目的とした組織があるため、それらの組織へ企画の持込を行った（つくばサイエンスアカデミー、筑協、TIA）。いずれも好感触、ぜひ公表を、自分の組織でシステムを使いたい、という声があり、いくつかの組織とは TREE 運営について実務的な議論を行ったが、運営のための人的リソースが確保できないという声が多く、システムの一般利用に至らなかった。H30 年度も引き続きつくばの研究機関の壁を超え全研究分野のコミュニティが情報共有できるシステム構築を目指す。

② Tsukuba Future Dome Symposium - 2 Farming

シンポジウムをきっかけに、2つのプロジェクトが発足し競争的研究資金を獲得した。応募の際には研究計画調書等応募書類のレビューを本ユニットで行った。

1) 【採択】平成30年度つくば産学連携強化プロジェクト

「環境保全型農業生産の確立に向けた極低温信号増幅器型マイクロ波放射計による農業環境で大気中 H₂O、NH₃ の測定手法の確立」

代表：野口良造（生命環境系 准教授）

共同研究者：トファエル・アハメド（生命環境系 准教授）、加藤 盛夫（生命環境系 助教）、長崎岳人（KEK 研究員）、奥島里美（農研機構 ユニット長）、森山英樹（農研機構 上級研究員）、土屋遼太（農研機構 研究員）、石井雅久（農研機構 上級研究員）

2) 【採択】平成30年度つくば産学連携強化プロジェクト

「複合材料の適用による温室構造の耐候性設計および補強技術の確立」

代表：松田哲也（システム情報系 准教授）

共同研究者：野口良造（生命環境系 准教授）、森山英樹（農研機構 上級研究員）、石井雅久（農研機構 上級研究員）

3) その他

平成 30 年度挑戦的研究（萌芽）に応募 ※2018. 3. 29 現在、採否未発表

③ つくば研究支援情報交換会

○第 1 回テーマ「つくば連携に使える研究資金」

○第 2 回テーマ「平成 30 年度 科学技術予算」

第 1 回では主に各機関における機関内グラントの企画・実施における難点について意見交換とアンケートを実施した。

第 1 回参加者から、実際にそれぞれの業務に生かす目的で参加者名簿の共有を提案され、参加者の合意のもと後日実行し、第 2 回も同様の手順で準備を行っている。

【今後の活動予定】

筑波大 — KEK の URA 協働からスタートした本ユニットであるが、「つくば研究支援情報交換会」を通じて研究支援職のネットワークが形成しつつある。その中には企画側として参加を希望するメンバーもいることから、TREE、シンポジウム、研究支援情報交換会や新しい取組等の企画ごとに研究支援者ネットワークの中から適宜チームを形成し、つくばエリアの研究力向上に寄与する取組を行っていく。

以上